

# 養老波見地域実質化された京力農場プラン

市町村名	地域名	(該当集落名)	当初作成年月	更新年月
宮津市	宮津	里波見・中波見・梅ヶ谷・奥波見	平成29年2月	令和2年3月

## 1 対象地区の現状

a 地区内の耕地面積	34.80 ha
b アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕地面積の合計	20.01 ha
c 地区内における80歳以上の農業者の耕作面積の合計	2.10 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	0.48 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	1.62 ha
d 地区内において今後中核的担い手が引き受ける意向のある耕作面積の合計	1.70 ha
e 地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	1.50 ha
(備考)	
dは、5年以内に引受意向のある面積	

## 2 対象地区の課題

課題
◆奥波見…2名の農家（70代と60代）が農地の約8割（8.4ha）を担う。いずれも後継者がおらず、次の担い手確保が課題。
◆梅ヶ谷…2名の農家（60代と40代）が農地の約7割（4.1ha）を担う。2名の年齢層は若いが集落の農家が少ないため水路等の管理の負担が大きいことが課題。
◆中波見…集落営農組織が農地の約4割（3.5ha）を担うが、メンバーの高齢化が進んでおり、組織の労働力確保が課題。
◆里波見…他地域に比べ各年齢層の担い手人数が多いが、現時点で高齢の方が担う農地の割合も大きく、次の担い手が確保が課題。
全体では、80歳以上の方が耕作する農地は今後5年で現状の2.1haから4.4haとなるものの規模拡大を見込む農家があるため、現状維持が見込まれる。一方で5～10年後では80歳以上の方が耕作する放置は10.5haまで増加する見込みであることに加え、アンケートでは80歳未満の農業者でも1.6haの規模縮小を見込んでいる。現状で確実に後継者が確保できている農家はいないため、新たな担い手をどう確保していくかが課題。

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

規模拡大の意向のある農業者に農地を集積・集約する。ただし、現状、すでに中核的担い手への集積が進み、これ以上の集積が困難であることから、集落連携による農地の共同管理など、新たな農地管理の手法を検討する。
--